



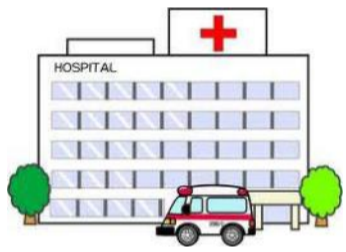
安心して生まれ、育ち、暮らせるふるさと生駒をつくらう

市立病院を最大限活かした 安心医療 のまちづくりを！

3月中旬、生駒の未来を創生する会のビラが配布されました。生駒市立病院やこれまでの市政に対する様々な批判が述べられていましたが、誤った認識に基づく意見であること、また、生駒市の市立病院はどうあるべきか、地域医療を良くするためにはどうすればよいのかなど、前向きな姿勢が全く見られないことに驚き失望しました。このビラに対する伊木まり子後援会の見解はホームページ(HP)で紹介しています。 HP ⇒ 伊木まり子 **検索**

3月25日、市議会議員3期目最後の定例会が閉会しました。3月議会では第6次生駒市総合計画(20年先までの生駒のまちづくりの指針)を議決しました。第6次はこれまでの人口増加時の計画と異なり、これから加速する人口減少と少子高齢化の進展を念頭に策定されました。日本の人口は2060年には8,700万人、100年後には4,200万人まで減少すると想定されています。奈良県の女性が一生で産む子ども平均数は1.33、全国で下から5番目です(2017年)。人口を維持するために必要な2.07からはるかに低い値です。人口減少をめくり有効な対策をとらなければ財政的にも人材的にも全く対処できない時代がやってきます。ビジョンの無い

批判に時間と労力を費やしている余裕はありません。人生経験豊かなシニアが元気でまちを引っ張り、子育て世代を手助けする仕組み、独居になっても安心して自分らしく暮らしていける仕組みなど、いろいろ考え、だれもが安心して自分らしく暮らせるまちになるよう、真剣に取



り組まなければなりません。

まちづくりの難しい時代になりますが、何をおいても住民の命が守られているまちであること、これはまちづくりの基本です。そのために私は市立病院を最大限活かしたいと考えています。

伊木まり子が考える 安心医療 のまち

- ① 市立病院と既存医療機関の良好な連携を実現し、市内全体で1つの総合病院として機能する良質で無駄のない医療が提供されるまち
- ② かかりつけ医と病院が連携し、一人一人の患者さんにとって最適の医療を提供できる 市民ファーストの地域医療体制が整ったまち
- ③ 予防医療が充実し、がんや糖尿病の人が減っていくまち
- ④ 仕事や学業を続ける患者さんを支える医療が充実したまち
- ⑤ 市役所の各部署の良好な連携により、妊娠から出産・育児・子育て、入院医療から在宅医療介護に当たり、必要な医療やサービスが市民にシームレスに過不足なく提供されるまち
- ⑥ 災害に強い市立病院を中心とした災害時の医療体制と被災者の生活支援体制が整ったまち

ぜひご意見をお寄せください。安心医療のまちをめざし、もうひと頑張りできればと思います。



学研高山地区第2工区のまちづくりに注目を！

*けいはんな学研都市・関西文化学術研究都市の愛称

市の面積の約5%を占める学研高山地区第2工区(288ha)を巡っては、25年前、県・生駒市・UR都市機構(UR)の3者で「関西文化学術研究都市・高山地区(第2工区)開発整備に関する基本協定」を締結、22年前には23,000人が住む住宅開発が計画されました。しかし、13年前、生駒市は住宅開発を白紙撤回。その後、再び、県・市・URによる開発計画の検討が行われるも、2010年、検討は中止となり、土地の荒廃が懸念されてきました。その後、URから所有地(132ha)売却の申入れがあり、2016年2月の臨時議会で市は『自然環境に配慮しつつ、地域のもつポテンシャルをいかしたまちづくりを推進すべき』とする庁内検討会議の結論を報告し、URの土地の取得予算3.4億円を提案。私は市民への周知もなく、具体的なプランもない状況での予算に反対しましたが、可決。市は再開発に舵を切りました。

市は2016年8月から第2工区のまちづくりを検討する有識者懇談会を開催、2017年8月『懇談会とりまとめ』が示されました。その後、地権者の会を設立、今年は市民も加わった新たな検討組織を立ち上げ、まちづくり事業のプラン策定に取り掛かります。

自然環境を守りつつ、奈良先端科学技術大学院大学(NAIST)や他のけいはんな学研都市*の研究施設や企業との連携による新たな取組み、新しい住宅、農業や自然を活かした取組みなど、雇用や税収にもつながる魅力的な事業になれば、人口減少という困難な時代を乗り切ることができると期待します。しかし、財政難の中での大事業です。工事開始は6年先の見込みです。将来世代につけを残すことのないように、市民が参加したまちづくりが進むように注視し、取組んでいきたいと思っています。

地権者は生駒市含め約1,100人。市は地権者の土地を買いあげず、他の地権者の協力のもと、事業を進めていきたいとしています。

奈良先端大のロゴ



2018年度、市内全中学校がNAISTの教員や学生による特別授業や出前授業を実施！



竹の造形:竹あかりの夕べ(高山竹林園)

3月議会の審査から
次年度の取組を紹介

人口減少・少子高齢化を乗り越え 次の世代につなぐために！

財政	行政改革	教育・保育	公共施設	都市計画	環境	水道
社会保障関連費は年2億円代で増加中。2018年度中期財政計画では市税収入は2023年までの5年間で約1.8億円減少の見込。経常収支比率は2023年には99.4%まで上昇する見込。	公共施設の適正な配置や管理、事業や補助金について見直しを行う。	子ども子育て支援事業計画(第2期)を策定する。前年に引き続き、学校教育のあり方検討委員会において検討を行っていく。(公共施設には学校・消防施設・公園・公営住宅なども含まれます)	築30年以上の施設が50%を超える状況。市民アンケート等も踏まえ、公共施設マネジメント推進計画を策定する。	人口減少・少子高齢化の進展や市民ニーズに対応できる都市計画マスタープラン策定(2020年)に向け調査・検討を行う。	1991年竣工の清掃センターについて、大規模改修やごみ焼却時のエネルギー利用・CO2の削減対策などを検討する。	県域水道一体化構想や県の新水道ビジョンとの整合性を図りながら、生駒市水道事業ビジョン策定に向け評価、分析を行う。



安心して生まれ、育ち、暮らせるふるさと生駒をつくろう



いのちより
大切なものはない！



市立病院を最大限活かす安心医療のまち
子どももお年寄りもいじめや虐待で命を
なくすことのないまち **をつくりたい**

生駒市議会議員 (3期) 元生駒総合病院医師

こんにちは伊木まり子です！

市議会議員として調査・質問・提案・要望しました



- 2015 生駒市立病院 / いこま国際音楽祭 / 病児保育
- 2016 乳幼児健診 / 熊本地震 / 市立病院 / 救護所設置訓練 / 子どもの見守り / がん検診
- 2017 2歳児死亡事案
- 2018 在宅医療・介護 / 熱中症 ACP / 市民主体のまちづくり

市立病院の先生方を招いて、市民の皆さんの疑問に答えました

- 2016年2月 院長・形成外科部長出席
- 2017年4月 院長・形成外科部長・副技師長出席
- 2017年11月 市長・院長・皮膚科医出席
- 報告・講演の後、市民と意見交換しました。

先進地を調査し、報告しました

- 2015 幼保連携 (習志野市・町田市)
- 2016 高齢者交通費助成 (玉野市・福山市)
- 2017 健康と福祉の視点から考えるまちづくり (多摩市・町田市)
- 2018 がん予防 (大和市・荒川区)

NPOの活動にも注力

- NPO法人生駒の地域医療を育てる会の理事・事務局長として学習会や見学会を企画
- 2015, 2016 市立病院親子見学会
- 2016 在宅医療勉強会
- 2017 在宅医療・介護・看護、終末期医療、地域医療構想
- 2018 地域医療・市立病院の将来像検討プロジェクト

伊木まり子、3期目4年間の取り組み